授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2451 号

Bacteraemia predictive factors among general medical inpatients: a retrospective cross-sectional survey in a Japanese university hospital

（日本の大学病院総合診療科入院患者における菌血症予測因子の横断研究）

福井　早矢人（ふくい　さやと）

博士（医学）

論文内容の要旨

近年新しい抗菌薬などの薬剤が開発されているが、入院患者の死亡原因の一つとして菌血症が依然として挙げられている。菌血症に対する診療において、重症感染症を併発しているのが疑わしい患者に対して血液培養を提出することは言うまでもなく重要である。しかしながら、血液培養を提出する明確な基準は存在せず、各々の医師による判断に委ねられているのが現状である。本研究は、総合診療科入院患者に対しての菌血症予測因子（血液培養陽性の予測因子）を横断研究により解明することを目的に行った。対象は、2011 年 1 月 1 日から 2012 年 12 月 31 日までに順天堂大学総合診療科に入院し血液培養を提出した全患者である。解析因子として、年齢、性別、医療施設からの入院の有無、感染源となりうる医療器具が体内にあるかの有無、2 週間以内に抗菌薬投与があるかの有無、1 カ月以内の手術侵襲の有無、ステロイドなどの免疫抑制薬の投与の有無、担癌患者かどうか、後天性免疫不全症候群患者かどうか、バイタルサイン（腋窩体温、収縮期血圧、拡張期血圧、脈拍数）、体格指数(Body Mass Index)、血液検査所見(白血球数、好中球分画、リンパ球分画、尿素窒素、クレアチニン、推算糸球体濾過量(eGFR)、C 反応性蛋白(CRP)、ヘモグロビン A1c、アルブミン)を選択した。統計学的な解析は、まずフィッシャーの正確確率検定を用いた単変量解析を行い、続いて有意差がある因子に対して多変量解析を行った。計 200 人の血液培養提出患者に対して 57 人の血液培養陽性患者を認めた(28.5%)。独立した菌血症危険因子として、年齢 60 歳以上(OR=2.75, 95% CI 1.23 to 6.48, p=0.015)、女性(OR=2.21, 95% CI 1.07 to 4.67, p=0.038)、脈拍数 90 回以上(OR=5.18, 95% CI 2.25 to 12.48, p<0.001)、好中球分画 80%以上(OR=3.61, 95% CI 1.71 to 8.00, p=0.001)が有意であった。以上の結果より、脈拍数高値、高齢者、女性患者、好中球分画高値の場合は菌血症である可能性が高く特に血液培養提出は推奨され、また血液検査提出時に血液像による白血球分画の評価を行うことは重要であると考えられた。